

オオタバコガ情報第1号（キク等）

令和6年5月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

フェロモントラップでの誘殺数が4月中旬以降急増！

ほ場での発生状況に注意し、発生を確認したら防除しましょう！

1 発生生態

本種は、若齢幼虫期には展開中の新葉や花のつぼみに潜り込むことが多く、中齢幼虫期以降は莢や果実の内部、茎の中や結球の内部へ移動します。終齢幼虫は土に浅く潜って蛹化します。成虫は1卵ずつ葉裏等に産卵するため、若齢幼虫期にハスモンヨトウのように集団で食害することはありません。

本種の寄主範囲は極めて広く、キャベツ、スイートコーン、トマト、ナスなどの野菜類、キク、バラ、カーネーションなどの花き類、ダイズ等で被害が記録されています。農作物への被害は、7～10月に最も多くなります。

2 発生状況

今年はフェロモントラップを設置した4月上旬から本種の誘殺が見られ、4月中旬以降急増しています。稲沢市及び豊川市のキクほ場に設置したトラップでは、4月第1半旬から5月第2半旬の総誘殺数が過去10年で最も多い状況です（図1）。

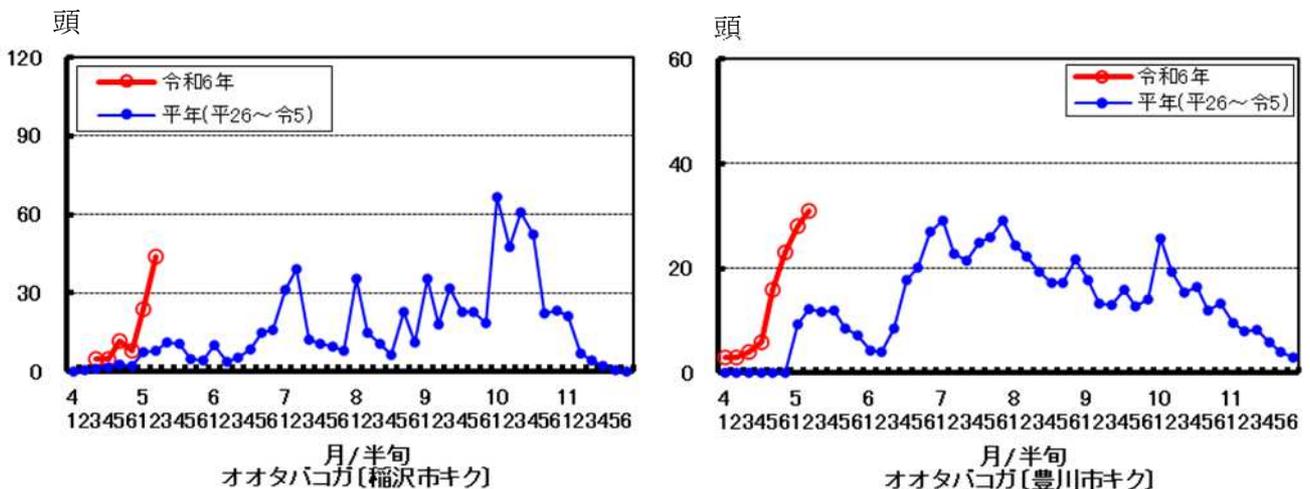


図1 フェロモントラップにおける誘殺状況

3 今後の予測

5月16日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高いと見込まれています。本種の増殖に適する天候が予想されるため、発生量が増加する可能性があります。

4 本種による被害と防除対策

茎、花蕾、果実及びキャベツ等の結球部に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫には薬剤の効果が著しく低下するため、若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底しましょう。

施設栽培では施設開口部に防虫ネットを設置して、成虫の侵入を防ぎましょう。

キクでは着蕾後に加害を受けると商品価値が著しく低下するため、着蕾以降は特に注意しましょう。

被害部位の残渣は、卵や幼虫が付着している可能性があるため、放置せず適切に処分しましょう。

薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同じ IRAC コードの薬剤は連用しないようにしましょう。なお、農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。登録のある農薬については、農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>) を参照してください。



図2 キクの葉を食害する幼虫



図3 キクの花蕾を加害する幼虫